

様式第5号（第16条関係）

長野市自然環境影響調査結果届出書

令和8年8月7日

長野市長 荻原健司 様

住所 東京都渋谷区猿楽町29番18号

ヒルイトテラスA2

氏名 山田耕熙

連絡先（電話）

法人にあっては、主たる事務所の
所在地、名称及び代表者の氏名

長野市自然環境保全条例第16条の規定により飯綱自然環境保全地域内において実施した自然環境影響調査の結果は、下記のとおりです。

記

- 1 行為の場所 長野市大字上ヶ屋字麓原2682-7, 2682-13一部, 2682-303一部
2682-304一部, 2682-305一部, 2682-328
- 2 行為の規模 6716.38㎡
- 3 調査の結果

（1）当該行為の影響が及ぶ地域の自然の現況及び特質

ア 特異な自然現象

イ 気 象

事業計画地は、標高約1000mの飯綱高原に位置し、長野市街地（標高約360m）より5～7℃程度低く、内陸性気候と高原気候の特徴を併せ持つ地域である。年間を通して冷涼な気候であるため、夏は避暑地として快適であるが、冬は積雪と冷え込みが厳しい地域である。

（ア） 気 温

標高が同程度である環境保全研究所飯綱庁舎（標高約1020m）の観測データによれば、最暖月は8月（月平均20.4℃）、最寒月は1月（月平均-3.5℃）といった傾向が見られる。最高気温は25℃未満、最低気温は-5℃前後であり、長野市街地と比較して冷涼な気候といえる。

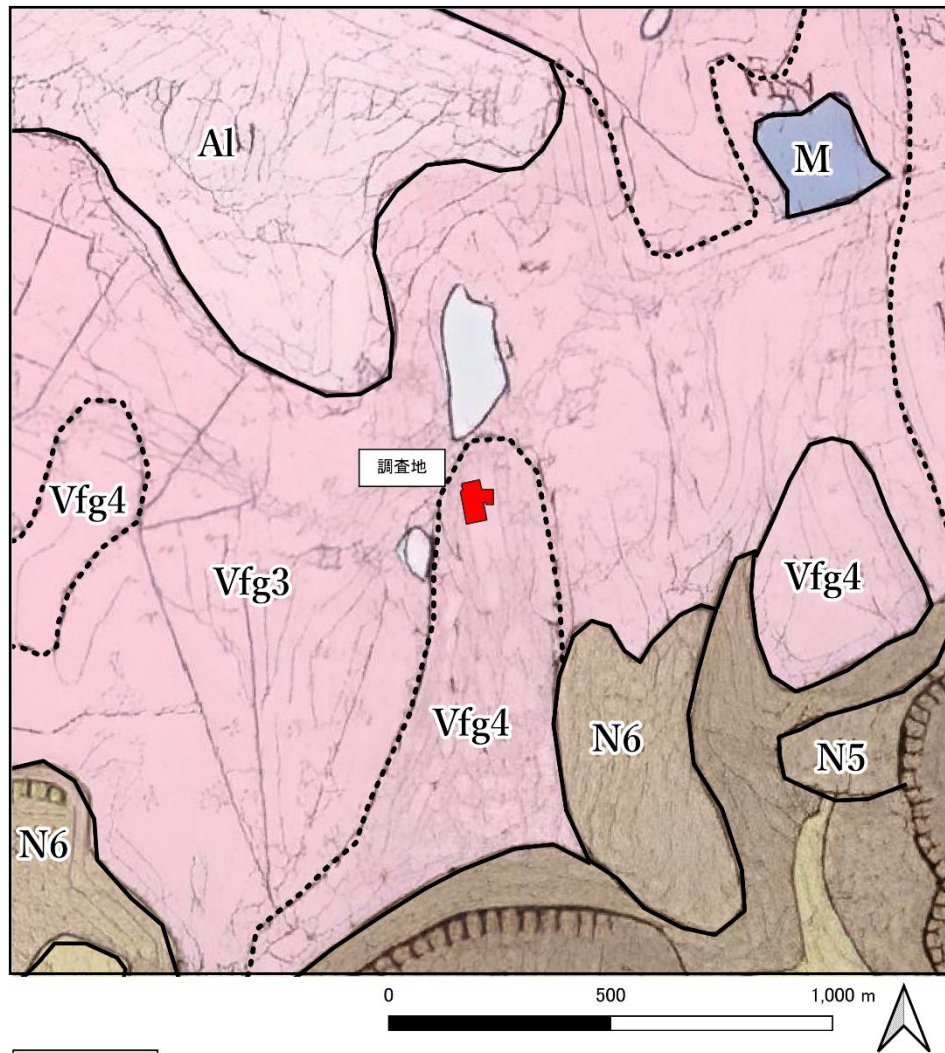
（イ） 降水量

標高が同程度である環境保全研究所飯綱庁舎（標高約1020m）の観測データによれば、6月の梅雨、秋の秋雨前線や台風時期に極大をとる季節変化がみられ、長野地方気象台の年間雨量（1991～2020年平均：965mm）と飯綱庁舎の雨量の差はほとんどない。

ウ 地 形

(ア) 地形分類

事業計画地の地形は火山麓扇状地に分類される。火山麓扇状地は火山体を刻む放射谷から供給された岩屑が山麓に堆積して発達した一種の扇状地である。また、事業計画地の南側には比較的傾斜の大きい山地が広がる。



Vfg3 火山麓扇状地 傾斜3° 以上8° 未満

Vfg4 火山麓扇状地 傾斜8° 以上15° 未満

N5 山地 一般斜面 傾斜15° 以上20° 未満

N6 山地 一般斜面 傾斜20° 以上30° 未満

M 湿地

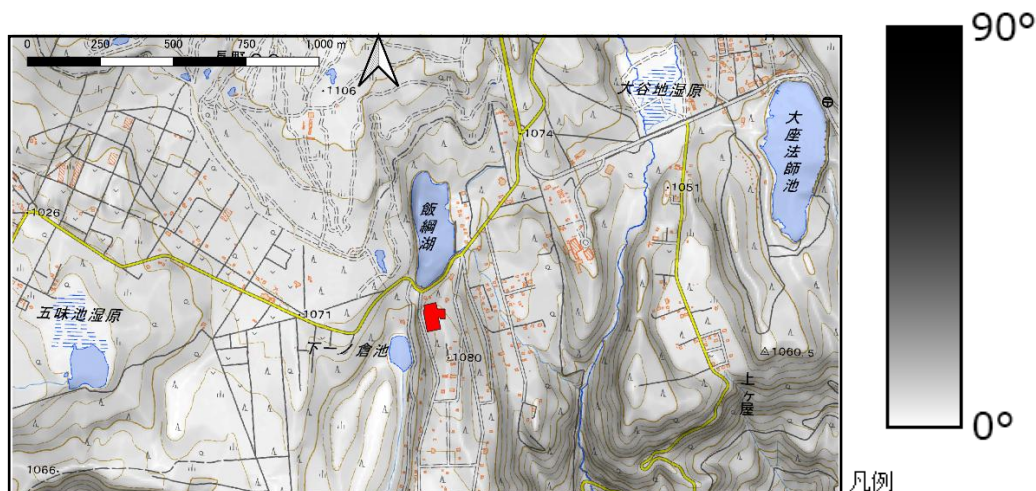
AI 人口改变地

出典
国土交通省
5万分の1都道府県土地分類基本調査
地形分類図
を加工して当社作成

事業計画地周辺の地形分類図

(イ) 傾斜分布

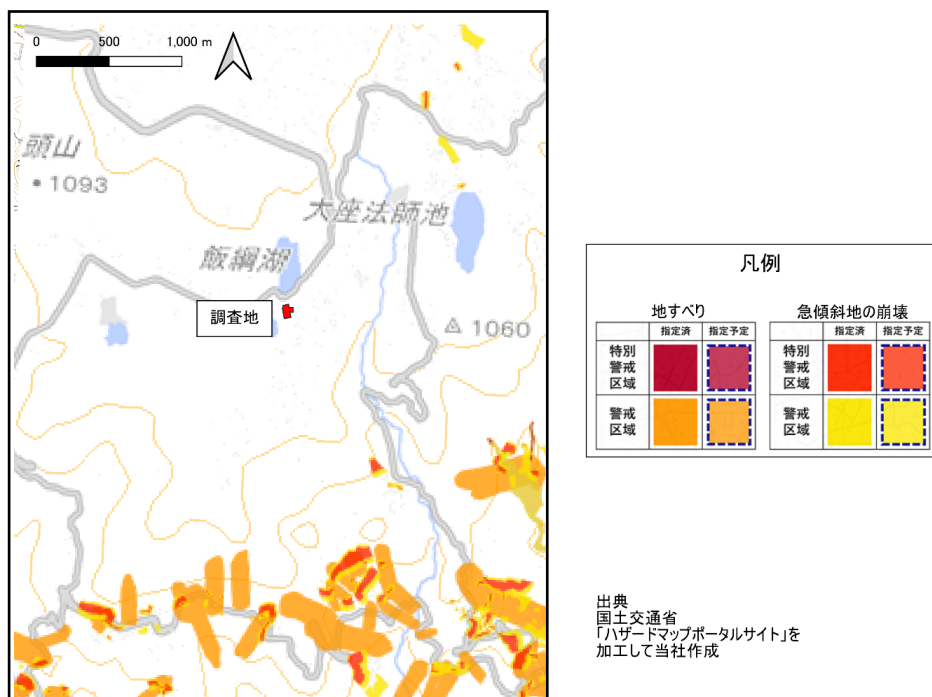
事業計画地の傾斜は、約 10° ～ 15° とみられる。事業計画地西側には約 25° の比較的急な斜面がみられる。



事業計画地周辺の傾斜分布

(ウ) 土地の安定性

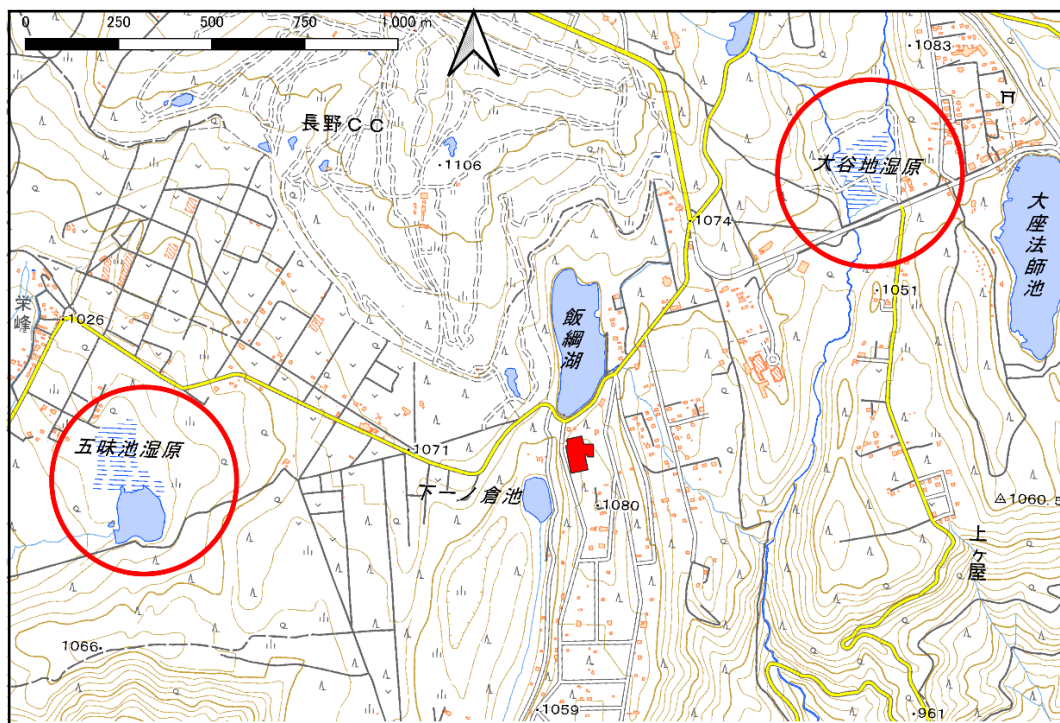
事業計画地の傾斜は緩やかな丘陵状の地形となっており、事業計画地よりも標高が上位に位置する斜面は近接していない。国土交通省「ハザードマップポータルサイト」によれば（下図）、地すべり及び急傾斜地の崩壊の危険性の高い地域に指定されていない。土砂災害リスクの高い地域は事業計画地よりも標高の低い地域に集中しており、土砂災害リスクは低いと考えられる。



事業計画地周辺のハザードマップ

(エ) 特異な地形

事業計画地に重要な地形は見られないが、「大切にしたい長野市の自然 改訂版」によれば、事業計画地から約1km離れた五味池湿原、大谷地湿原が、市の特色ある地形として指定されている。

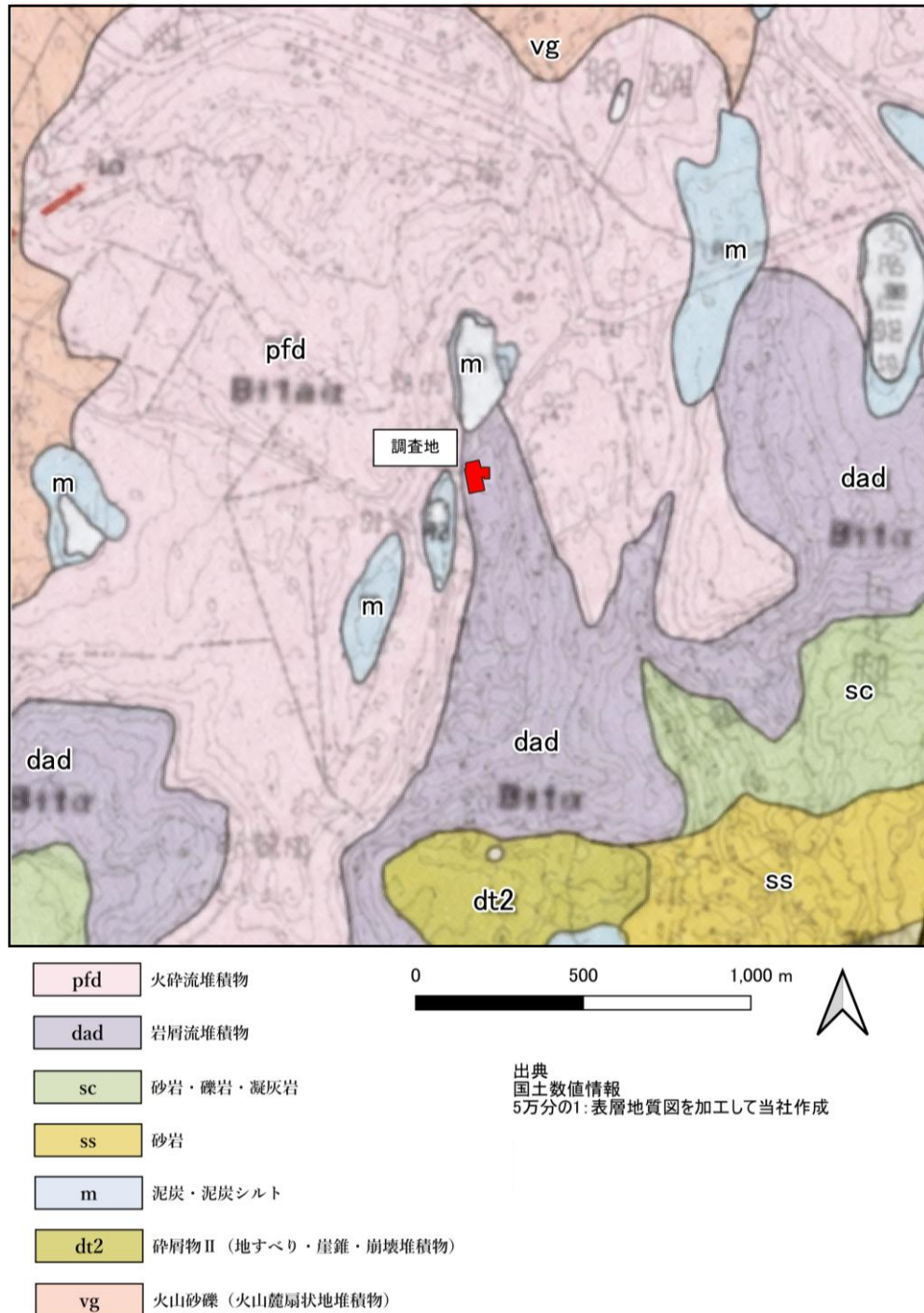


重要な湿原の位置図

エ 表層地質等

(ア) 表層地質

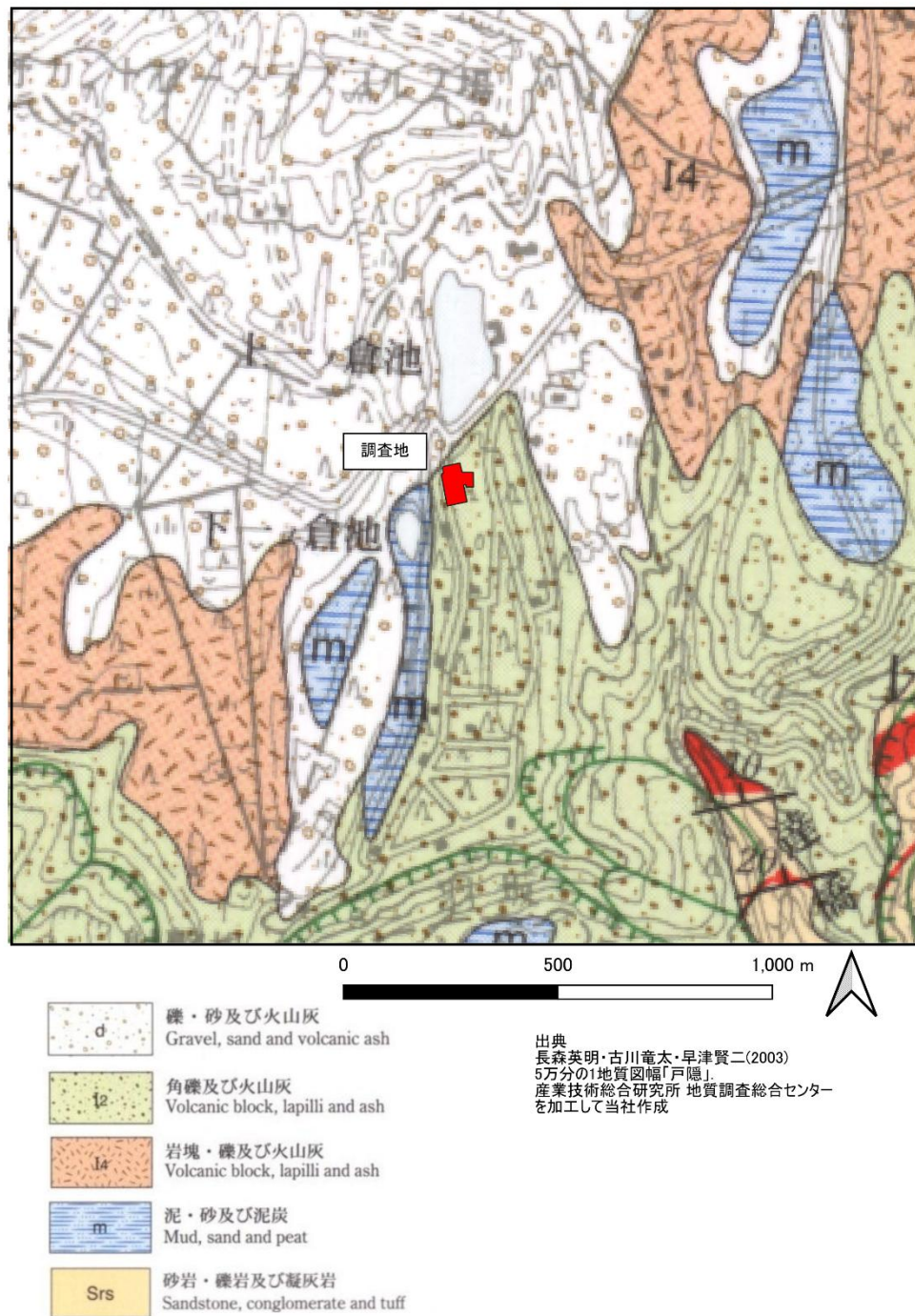
事業計画地及び周辺には飯縄火砕流堆積物が広く分布する（下図）。また、飯縄山の南麓から南東麓にかけては、湖沼や湿原が分布する。同場所には、泥炭層を主とする湿地堆積物がみられる。



事業計画地周辺の表層地質図

(イ) 地質構造

事業計画地及び周辺は角礫及び火山灰層に区分される（下図）。特に、飯綱高原の平坦な地形面は風化火山灰層に覆われ、5～10mの層厚を示す。



事業計画地周辺の地質図

(ウ) 土地の安定性

飯綱高原のように、広い範囲に風化火山灰層が分布する土地は、地形的に平坦であり、比較的安定した地盤条件を有する土地である。

地形の**土地の安定性**でも述べたように、事業計画地は傾斜の緩やかな地域であり、付近は「土砂災害の危険性がある区域」にも該当しない地域である。

(エ) 特異な地質

事業計画地は飯縄山の山麓に位置し、第四紀の火山噴出物によって構成される地質が分布しており、付近に「大切にしたい長野市の自然 改訂版」指定の保全対象となる地質は確認できなかった。

出典：長野市植生図（長野市誌 第11巻 資料編自然付図（2000年））

(ウ) 貴重な種、群落又は植生の分布状況、植生、植物社会学的特性、遷移過程等文化財保護法、種の保存法、長野県希少野生動植物保護条例の指定種、環境省・長野県・長野市のレッドリストに該当する貴重な植物及び群落は確認されなかった。また、特定外来生物についても確認されなかった。

草地については、タケニグサ、ワラビ、シラカバなどのパイオニア植物が優占していることから北側のカラマツ・アカマツ林が伐採された区域であり、遷移過程の草地と考えられる。

なお、動物調査でヨモギ等を食草とする貴重種であるヒメシジミが確認されているため、ヨモギ群落はヒメシジミの生息環境として重要であると考えられる。

(エ) 植生のもつ保全機能

事業計画地の植生は、降雨による表土流出の抑制や雨水の浸透促進など、土壌・水環境の一般的な保全機能を有している。また、アカマツ・カラマツ林と伐採跡地の草地・疎林が隣接し、多様な生物の生息・繁殖環境として機能している。実際に、ヨモギを食草とするヒメシジミや、疎林環境のシラカバに営巣するニューナイスズメが確認されており、生物多様性の保全にも寄与している。

カ 動 物

(ア) 哺乳類

a 生息状況

現地調査の結果、ヒミズ、ノウサギ、アカネズミ、タヌキ、アナグマ、ハクビシン、ニホンジカ等の7科8種の哺乳類が確認された。

b 貴重種その他重要種の生息環境特性

貴重な哺乳類は確認されなかった。また、特定外来生物も確認されなかった。

(イ) 鳥類

a 生息状況

現地調査の結果、ホトトギス、カッコウ、アカゲラ、サンショウクイ、ヤマガラ、ヒガラ、ニュウナイスズメ等の15科23種の鳥類が確認された。

これらのうち、巣への餌運びや巣立ち雛などを確認した種はアカゲラ、モズ、ニュウナイスズメ、ホオジロの4種であった。

b 貴重種その他重要種の生息環境特性

貴重な鳥類は、サンショウクイ及びニュウナイスズメが確認された。

ニュウナイスズメは事業計画地内のシラカバでの営巣が確認された。

また、特定外来生物は確認されなかった。

(ウ) 両生類・爬虫類

a 生息状況

現地調査の結果、両生類 1目 1科 1種、爬虫類 1目 1科 1種 が確認された。

調査範囲には止水域など両生類の生息・産卵環境がないため、確認はニホンアマガエルのみ（鳴き声）であった。また、爬虫類についてはニホンカナヘビのみの確認であった。

b 貴重種その他重要種の生息環境特性

貴重な両生類・爬虫類は確認されなかった。また、特定外来生物も確認されなかった。

(エ) 昆虫類

a 生息状況

現地調査の結果、昆虫類は、クモ類を含めて 49科 93種 が確認された。

イブキヒメギス、クモガタヒョウモン、ウスバシロチョウなどの林縁を含むやや開けた環境を好む種が多かった。

b 貴重種その他重要種の生息環境特性

昆虫の重要種としてヒメシジミが確認された。

確認場所は未舗装道沿いのヨモギ群落で、道沿いを飛翔していた。

ヒメシジミはヨモギ群落が発生源となっている可能性が高い。生息密度は不明だが、調査時は発生初期の可能性が高いため、多数が生息する良好な生息地の可能性もある。

なお、特定外来種は確認されなかった。

(オ) その他特殊な動物

a 生息状況 なし

b 貴重種その他重要種の生息環境特性 なし

キ 陸 水 該当なし

- (ア) 河川の流量及び形状
- (イ) 湖沼の状況
- (ウ) 生物化学的酸素要求量（BOD）又は化学的酸素要求量（COD）、透明度等汚濁の状況
- (エ) 水生生物の種類

ク 自然景観

- (ア) 行為地及びその周辺の自然景観の状況
行為地の大部分は、伐採後の草地であり、周囲に雑木林がある。
- (イ) 行為地及びその周辺における主要展望地点の有無及び位置
主要展望地点はありません。
北側雑木林を伐採することにより飯綱山が一望できる。
- (ウ) 主要展望地点の利用状況

ケ レクリエーション利用

- (ア) 行為地及び行為地周辺の主要なレクリエーション地域の状況
事業計画地周辺には、飯綱高原キャンプ場、ナガノフォレストビレッジ等の自然系のレクリエーション施設をはじめ、飯綱高原南グラウンド、長野カントリークラブ等の運動施設が立地している。
- (イ) 行為地及び行為地周辺の利用施設の位置、規模及び利用状況
近隣には長野カントリークラブの運動施設が立地している。

(2) 当該行為の自然環境に及ぼす影響の内容及び程度

ア 特異な自然現象の改変の程度及び内容

イ 地 形

- (ア) 地形の改変の程度及び内容
北西側に地形が傾斜しており、立木の伐採範囲を必要最小限にし、盛立により造成地盤を築造する。
- (イ) 土地の安定性の変化の程度
高盛土部は、擁壁を設置し、土砂の流出を防いだ。
- (ウ) 特異な地形の改変の程度及び内容 該当なし

ウ 地 質

(ア) 表層地質の改変の程度及び内容

盛立を行う部分の表土を盛土法面及び建物の間地に表土として再利用し、できる限り現地の植生保存に努める。

(イ) 土地の安定性の変化の程度

現地の表土を再利用する為、変化の程度は少ないと考える。

(ウ) 特異な地質の改変の程度及び内容

該当なし

エ 植 物

(ア) 植生の消滅の有無並びに改変の程度及び内容

切土及び盛土する範囲に生育する植生は一部消失するが、消失面積は最小限とする。

(イ) 貴重な種群落又は植生の消滅の有無及び改変の程度

事業計画地の大部分はワラビ、イタドリ、タケニグサなどの在来植生に加え、メマツヨイグサなどの外来種を含む荒地雑草群落であり、重要種は確認されていない。

(ウ) (ア)及び(イ)に関して改変地域の周辺の植生等に及ぼす影響

事業計画地の大部分は荒地雑草群落であり、切土及び盛土によって一部植生は消失するものの、重要種は確認されておらず、また、改変面積は最小限とするため、周辺植生に与える影響は軽微である。

(エ) 保全機能の変化の程度及び内容

事業計画地においては切土及び盛土によって一部植生は消失するものの、裸地部分には在来植生による早期緑化を行うとともに、改変面積は最小限とするため、保全機能の変化及び程度は軽微である。

オ 動 物

(ア) 貴重種その他重要種の生息環境の消滅の有無及び改変の程度

事業計画地においては現地調査の結果、重要種として鳥類のサンショウクイ、ニュウナイスズメ及び昆虫のヒメシジミが確認されている。サンショウクイは上空通過個体であり繁殖は確認されていないが、ニュウナイスズメは事業計画地内で繁殖していたため、高木の伐採が行われる場合は、営巣環境に影響を与える可能性がある。

ヒメシジミについては食草がヨモギであると考えられるため、事業によって一部消失するものの、代償的な環境は周辺に分布している。

(イ) (ア)に関して改変地域の周辺の貴重種その他重要種の生息環境に及ぼす影響

ニュウナイスズメの営巣環境はキツツキの古巣や樹洞であり、シラカバ、ダケカンバ、ミズナラ、ハルニレなどの高木が利用される。事業計画地周辺はこのような樹木が生育しているため、事業によって一部伐採された場合も営巣可能な環境は維持され、繁殖に与える影響は軽微であると考えられる。

また、ヒメシジミについても食草であるヨモギは事業によって一部消失するものの、周辺環境にヨモギが生育する代償的な環境が存在するため、ヒメシジミの生息環境に与える影響は軽微であると考えられる。

カ 陸 水 該当なし

- (ア) 河川の流量並びに流況の改変の程度及び内容
- (イ) 湖沼の改変の程度及び内容
- (ウ) 水質（ＢＯＤ又はＣＯＤ、透明度等）の変化
- (エ) 水生生物の損耗の有無及び種類等の変化の程度

キ 自然景観

- (ア) 主要展望地点からの眺望に与える影響

主要展望地点なし

- (イ) 自然景観の醸し出す雰囲気を与える影響

開発区域周囲は雑木林に囲まれており、隣接市道からは、現状と変わらない状況であり、自然景観の醸し出す雰囲気を与える影響はほぼないと思われる。

ク レクリエーション利用

レクリエーション地域及び利用施設の消滅の有無及び改変の程度並びに利用状況の変化

該当なし

- (3) 当該行為の自然環境に与える影響の軽減措置

改変部の建物、舗装等以外は緑地としており、現地の表土の再利用を行うことにより自然環境に与える影響の軽減になると考える。

- (4) 評 価

- ア 代替案が考えられる場合には、その概要及び代替案と当該行為を比較した結果
無し

- イ 総合的評価

計画は、建物、舗装等以外はすべて緑化を考慮しており、緑化する表土は、現地の表土を再利することにより、現状の植生、生物に与える影響は最小限であり、環境への影響を抑制することが可能と考えられる。

- (5) 調査者の氏名及び住所（法人にあつては、主たる事務所の所在地、名称及び代表者の氏名）

名称：株式会社土木管理総合試験所 代表取締役 下平雄二

住所：長野県長野市篠ノ井御幣川 8 7 7 - 1